

一般常識講義⑥2005-2016

関連動画

会社法

<http://www.youtube.com/watch?v=-l7ucy2Hv2w>

夕張市

<http://www.youtube.com/watch?v=A3kgIYDF5A>

夕張夫妻（負債）

https://www.youtube.com/watch?v=E-_ETYBCppw

三位一体の改革

<http://www.youtube.com/watch?v=9mQ-BiQw0XA>

アイヌ民族、先住民族に

<http://www.youtube.com/watch?v=BI9BTECgJF4>

リーマンショック（続編もご覧ください）

<https://www.youtube.com/watch?v=Fmkp6ICAt-s>

観光庁設置

<https://www.youtube.com/watch?v=a82Nla8zwiE>

EPA

<https://www.youtube.com/watch?v=b3lJzQP5n-Q>

改正介護保険

<https://www.youtube.com/watch?v=WXYTJhaPQpw>

上海万博（中国語）

<http://www.youtube.com/watch?v=vg2-D0D98p4>

TPP 問題

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013772502_00000

アラブの春（カダフィ大佐）

http://www.youtube.com/watch?v=Wi_xm0vtFTE&feature=related

ねじれ国会

<http://www.youtube.com/watch?v=TF0m80CFUAI>

COP18

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013772254_00000

原発事故

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_nw9_20110503_1032

中韓首脳会談

<https://www.youtube.com/watch?v=Q3pUcsjz6k4>

リオ+20 グリーン経済

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_tonight_20120621_2010

メタンハイドレート

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_nw9_20120202_1652

オスプレイ配備

<http://www.youtube.com/watch?v=AhQIYEa7rPY>

レアメタル

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_ohayou_20130220_2345

イスラム国

https://www.youtube.com/watch?v=_mQkUVdVfjg

ピケティ

<https://www.youtube.com/watch?v=MupMmuYJ0hk>

中国のCO2対策

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013773455_00000

COP21

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013773461_00000

高田の独り言

北京オリンピック・上海万博への論調と

「中国脅威論」

2008年から2010年にかけて、すなわち北京五輪から上海万博にかけて日本のメディアにおける「中国異質論」が激しくなってきました。「中国＝反日、人権無視、貧富の差が大きい、民度が低い、拝金主義、経済のみ極端に成長し、政治的には全く成長しない」、といった「上から目線」のスタンスが目立つようになったのです。そして北京五輪や上海万博の期間中でも、競技そのもの、展示内容そのもの以上に批判的、または上から目線で中国の政治経済や中国人のマナーを報道したものが多かったと思うのはわたしだけでしょうか。



↑殺到する中国人観光客（銀座）

2010年には四十年にわたって米国につぐ世界二位を誇ったGNP（GDP）もついに中国に抜かれ、相対的に落ち目になってきた日本と比べて、少なくとも経済的には元気なことこの上ない中国であるから、やっかみもあることではしょうが、ここに来て「中国異質論」が日常的なトーンとなってきたと改めて感じました。

日本もかつて80年代から90年代にかけて「日本異質論」と欧米からやり玉に挙げられたことがあります。しかし今の先進国にとっての「中国異質論」はかつての「日本異質論」と根本的な違いがあるように思えます。それには二つの理由があります。

一つは中国の人口の大きさに起因します。世界をリードする「先進国」の定義をとりあえずCIAとIMFが双方とも「先進国」と認め

た国とするならば、それは西欧、北米、オセアニア、日本、イスラエルの24カ国が該当します。「先進国」の総人口もせいぜい人口9億人あまり、すなわち中華人民共和国の三分の二ほどなのです。20年前の「日本異質論」は、以上の先進国＝コーカソイドのユダヤ・キリスト教を主とし、人口約8億を擁する「西洋諸国」に、わずか人口1億余りのモンゴロイド・非キリスト教国の後発先進国たる日本が「数の論理」で「仲間はずれ」になり、日本が「先進国の一員」となるために「西洋」に合わせたと私は理解していますが、中国はその「先進国」を人口で圧倒しているのです。

もう一つの理由は、日本がその歴史の長きにわたり大国の周辺諸国であったのに対し、中国は中国自身で西洋文明に匹敵する、あるいはそれ以上の「文明の中心」であったことです。「文明」とは普遍性を、「文化」は個別性を意味するとするならば、日本や朝鮮やベトナムには独自の「文化」はあっても、他国・他民族の精神の根幹や生活様式を築き上げるほどの「文明」は築いていないのです。例えば中国の儒教や仏教、漢字などが周辺諸国に与えた影響に比べると、日本のアニメや寿司も、韓国のドラマやハンゲルも、あるいはベトナムがアメリカに戦勝したことさえも、他国・他民族の精神の中枢にまでは触れはしなかったし、外国人のライフスタイルを根本的に変えたとはいえません。

その文明の中枢にあったがゆえに西洋文明を軽々しく受け入れなかった中国は、今後も根本的な意味で自由や人権、民主主義といった西洋文明の産物を受け入れないだろうと私は思います。それどころか、ある程度人権を抑圧しても経済的な発展を最優先させる「中国モデル」は、アフリカなどの非西洋諸国に大きな影響を与えるのではないかと思うのです。

とりあえず明治維新以降、西洋文明を模範としてきた日本と、いまだかつて共産主義以

外の西洋文明を積極的かつ本格的に受け入れなかった中国では、西洋文明に対する「慣れ」において大きな差があります。「日本異質論」は日本が西洋に合わせることで、また、日本経済が衰退することで消えていったけれど、「中国異質論」がトーンダウンするのは世界が「中国化」したときではないでしょうか。

道州制導入と九州

九州は地理的、文化的、言語的、そして気候的にも日本のその他の地域と比べて比較的均質性を保ってきたといえます。実際には九州各地の人々がよりどころとするアイデンティティは異なるにもかかわらず、関東や関西で九州人同士が集まると非常に親近感があるといいます。

さて、その九州7県、場合によっては沖縄を含んだ8県が、道州制の前哨戦ともいえる「総合特区」として、インバウンド誘致という共通の利益を狙っています。特に中韓にはない煙たなびく活火山として、阿蘇山、雲仙、桜島などが、また世界への窓口として活躍した史跡としては、長崎市や平戸市、博多区などが、テーマパークとしては宇宙体験のできる北九州のスペースワールドやオランダの街並みが自慢のハウステンボスなど、そして温泉なら別府に武雄、雲仙など枚挙にいとまがありません。



↑アジア系観光客であふれるハウステンボス

しかしこれらはみな7県にばらばらに点

在し、共通のキャンペーンが行いにくくなっています。そこで九州を総合特区に指定し、共同戦線で海外にその魅力をアピールしようというのです。ただ、そのため九州の通訳案内士に限っては単純な研修を受けるだけでできるようにしようという計画を策定したため、通訳案内士諸団体から大きな反感を買いました。また九州だけでなく東北でも関西でも、同じような動きが進んでいます。規制緩和と地方自治の折り合いがなかなか難しいところです。

現代日本の問題解決の糸口は

島根にあり！

私の故郷、島根県には日本の抱える矛盾や問題点が詰まっています。「現代日本の抱える問題について考えたいなら島根県に行こう！」といたいぐらいです。

まずは人口。1950年代に90万以上いた島根県の人口は、現在約70万人で、鳥取県に次いで少ないのです。それでいて高齢者の比率は約3割と、2011年まで日本一でした。すなわち高齢化と過疎化の進行が日本一著しい県といえるでしょう。

財政破綻寸前の「パラサイトシングル」県

そして2000年代以降の三位一体の改革により、国からの補助金や地方交付税交付金の大幅な減額がなされました。2005年、すなわち私が東京に拠点を構える1年前、地元で島根県安来市役所に行ったところ、夏であるにもかかわらずエアコンは入らず、照明は消えていました。国からの「仕送り」減額がこのようにところに反映されていたのです。

また、人件費削減のため、このころから正職員としての公務員の募集を減らし、行政や外郭団体の職員の多くが臨時職員となっていきました。島根県内では公務員や団体職員を除くと、電力会社、農協（JA）、

地銀ぐらいしか公務員に匹敵する収入が保証される職場はないのが現状です。しかし臨時職員の場合、その収入は、公務員の初任給にも満たず、「官制ワーキングプア」という状況が生じました。同じ職場で同じような仕事をしながら、三十代の職員の年収差は二倍以上なのです。しかも一年契約ですので生活は安定せず、これでは結婚なども考えづらいという二十代、三十代が多いのも無理はありません。そのため親から経済的自立ができない若者も多く、30代になっても未婚で両親のもとに住み続ける「パラサイトシングル」がかなりいました。（何を隠そう、この私もその一人でした）そしてこのようなワーキングプアが増えることにより、島根県の税収も大幅に低下しているのです。

実際、島根県の自主財源率は全国最低で、なんと1割！すなわち県内で年間に使われる財源の9割は国からの「仕送り」いうことです。地方自治における自主財源というのは、子どもが親のすねをかじらずにどれだけ小遣い稼ぎができるかというようなものですが、島根県民のみならず、島根県という自治体そのものが国に対して「おんぶにだっこ」、経済的な自立は全くできていない「パラサイトシングル状態」なのです。これを財政破綻といわずして、なんなのでしょうか。

一方、島根県の失業率は全国平均の半分ほどの2%強で、これは福井県について二番目の低さです。しかし島根県が雇用面で安定しているような錯覚をしてはいけません。県内にはフリーターができるような店が限られているし、職場を何らかの理由で解雇されたら県外に職場を求めるのが一般的なのです。ひとたび県外に出て住民票を移せば、その人は島根県民ではなくなるため、数字上の失業率はきわめて低いのです。

「高齢者天国」島根県

ところで島根県の抱える最も大きな問題は高齢化だと思いますが、これはまさに東京都の数十年前先を先取りしています。どこに行っても老人だらけ、「老人天国」とでも形容できそうなほど老人の多さが目立ちます。

1998年に町内の氏神様の遷宮がありました。25年ぶりのことで、町内中の氏子が集まり、盛大におみこしを担ぎました。昼の日中から我々「若い衆」はみこしの練り歩きのコース上にある家に押し入っては「酒を飲ませろ！」と酒を強要し、酒が出たら「つまみはないのか！」とどなります。我々は神様を担いでいるので、乱暴狼藉も神様のお墨付きなのです。その時27歳だった私はかなり若いほうでした。周りの「若い衆」をみると、過半数が40代から50代前半なのです。当時50歳の父親も一緒に神輿を担ぎました。



↑氏子たちに守られてきた山奥の神社（出雲市）

それはそれで楽しい思い出として残りましたが、あれから15年たった正月に例の氏神様にお参りし、あのとき一緒にみこしを担いだ「若い衆」が、高齢者入り、または高齢者直前になっていることに改めて気づきました。正月なので境内にはそれなりに人がいるのですが、この15年で町内に子供は少ししか生まれなかったため、子どもの数は多くありません。また、15年前に70代だった祖父たちの世代は、すでにこの世にいません。そして私のように町

内を離れた「若い衆」も少なくありません。そのような中で私のような「若い衆」が歩いていると、「あーはどこのわけすかいの（あれはどこの若い衆だろう）」というような目で見られるのです。うちの町内では「若い衆」が好奇心の対象になるぐらい、少数派なのです。

二十代のころに島根県で過ごした仲間たちのうち、数人が東京に住んでいます。時々うちに来て近況を語るのですが、そのとき共通して感じるのが、故郷を離れたことに対する後ろめたさです。故郷にいたころには県や市町村に対する悪口だらけだったのに、東京に住むと不思議なことにそのようなことは言わなくなり、「東京に住みつつ郷土のためにできることはないか」ということについて話し合うようになりました。

そんなときにできたのが「ふるさと納税」です。住民税の一部が指定した自治体に納税できると聞き、永田町の都道府県会館に概要を尋ねに行きました。ただ、やりかたがかなり複雑なため、今に至るまで実行しておりませんが、今年はぜひとも挑戦しようと思っています。

さて、つれづれなるままに島根県の現状を述べてきましたが、①若年層の就業問題、②財政破綻、③高齢化、④過疎化、⑤人口減少といった日本社会が直面する社会問題を、島根県にいと生活の節々から感じられます。「現代日本の抱える問題について考えたいなら島根県に行こう！」と申し上げたい所以はここにあるのです。そして近い将来、いや、もうすでに日本各地が陥りつつある問題解決の糸口が見つかるかもしれないのです。